



リソグラフ ってなに？

理想科学工業のデジタル孔版印刷機であるリソグラフは、2つのドラムにそれぞれ異なる調色済みインクが入っていて、色ごとに原稿を刷ることで印刷が仕上がる印刷機です。いわゆるシルクスクリーンと仕組みは同じで、同じ会社のプリントゴッコを知っている世代には懐かしいレトロな印刷が楽しめます。

手描き原稿でも楽しめます

パソコンで精細にデータを作ったり、色を指定したりもできますが、手描きでも写真にイラストを合成したりなど特徴のあるリソグラフが楽しめます。様々な印刷方法をぜひ試してください。



ファイル形式	 .ai	 .psd	 .pdf	 .jpg	 手描き	解像度は 300-600 dpi
--------	--	---	---	---	--	---------------------

1. データは色ごとに



アートボードを別々にするとベター

リソグラフの原稿は、色ごとにグレースケールで作るのが一般的です。印刷時にインクをのせたくない所はパスファインダーなどで上手く抜いて仕上げましょう。

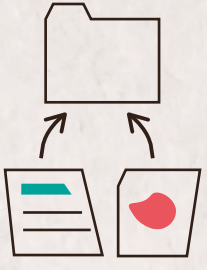
2. アウトライン化



フォントは反映されません

印刷用パソコンにインストールしているフォントには限りがあります。思い通りに印刷するために必ず文字をアウトライン化して、ベクターデータにしてお持ちください。


3. 画像は埋め込みで



リンク切れだと印刷ができません

データを移動させるときには画像などのリンクファイルを忘れずに。リンクウィンドウ内のデータのファイル形式の横に(埋め込みファイル)と書かれていればOKです。

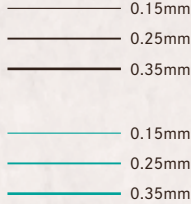
4. 濃度は反映されます



薄すぎても濃すぎても×

広い面積のインクが濃すぎると印刷に問題が出る場合があります。反対に薄すぎると機械が読み取れず上手くいかないことも。*横の画像は5%~90%のグラデーションです。

5. 細かいところは注意



細い線は0.15mmまでがベター

細すぎる線は上手く製版できずかすれてしまうことがあります。印刷結果を安定させたときは、線の細さは「およそ0.15mm」までにおさえておくとベターです。

6. 3色以上は分けて



2日以上に分けて刷りましょう

リソグラフは一度に2色ずつ刷れますが、乾燥する前に再度印刷すると印刷物が汚れます。3色(2+1色)=最低2日、5色(2+2+1色)=最低3日などに分けて刷ってください。